

平成27年6月8日

青森地区障害者就労支援連絡会（アップルワーク）

障がい者就労支援事業所（株）実
代表取締役専務 齋藤 康生

平成27年6月5日（16時～20時）、青森市にあるラ・プラス青い森において、平成27年度・青森地区障害者就労支援連絡会（通称アップルワーク）の総会ならびに障害者を雇用されている企業様による研修会、さらには情報交換会が行われ参加してまいりました。

私どもは青森地区障害者就労支援連絡会（以下、「アップルワーク」といいます）の活動主旨に賛同し、昨年度より同会に登録しました。

今回のアップルワーク参加の企業様、就職者や特別支援学校の教諭の方々、各支援機関の皆様と直接交流できるとあって、とても楽しみにして会場に向かいました。

アップルワークの活動内容の中に、研修・啓発活動などがありました。

- 1、 障害者雇用事業所や雇用希望の事業所等の研修・啓発のために就労移行支援事業所等の情報交換を積極的に行う。
- 2、 アップルワークの活動内容や就労支援情報等を紹介し、会員相互の研修や関係機関等との理解啓発を図っている。
- 3、 会員相互の親睦を図るために、9月と1月にレクリエーションや新年会を開いている。など、どの活動も障害者の一般就労を現実的に目指すことや、職場定着を行う目的があります。改めて、アップルワークに入会してよかったと思いました。

総会の後に行われた研修会においては、『障害者の雇用定着に向けた取組み』として、株式会社みちのく銀行 人事部 丸井様の講義を受講し、清掃作業班（Pastel）の編成経緯や雇用体制の構築・雇用定着のための取組みの実際を学習する機会を頂きました。

すべて現実的で真摯に障害者雇用に取り組んでいることが伺えました。

なかでも私が印象的だったことは、障害者の雇用に関する現状の再確認や受入れ体制に関する課題を企業としてアセスメントしながら解決策を見出している点。併せて管理体制の構築を図りながら支援機関等との連携強化。ジョブコーチ（企業在籍型職場適応援助者）の活用、作業手順の活用を構造化している点など、理論的・学術的に雇用定着を推進していることでした。